

みのわみつあき 市政活動報告

令和3年9月

岐阜市役所新庁舎が開庁して、5か月が経ちました。様々な申請等は、ワンストップ窓口が整備されて短時間で済むようになり、また、明るくて快適な市民に開かれた役所になりました。皆様も一度、来庁してみてください。

さて、新型コロナウイルスは2019年12月に中国武漢市で発生し、武漢から世界に広がっていったといわれていますが、1年9か月以上経ても「変異株」の発生により、収まるどころか拡大するばかりです。岐阜市においても感染拡大により、市民生活が様変わりしております。健康・生命への脅威、学校教育・経済活動の停滞、社会や人とのつながりの制限など課題が山積しています。コロナ禍後の市民生活を見据えて、岐阜市においては、「岐阜市未来都市構想」を今年度に策定することになっています。

また、岐阜市は新型コロナウイルス感染症総合対策に係る予算として、感染拡大防止対策に7億円、医療・予防体制の充実強化に26億円、社会経済活動支援に128億円と新たな日常生活の構築等推進に3億円を計上しています。様々な施策を講じて、コロナが早く終息することを祈るばかりです。

※地域要望活動を行いました！

皆様の困り事等、ご相談いただければ対応させていただきます。

- ・山県用水（7月7日）……………41項目
- ・三輪南地区（7月14日）……………111項目
- ・三輪北地区（7月20日）……………81項目

* 2自治会連合会については、各自治会からの要望をとりまとめられた結果を要望しています。

上記については、各地区からの要望として、役員の方々と直接、市役所担当部署に要望活動として実施しました。



令和3年第2回議会（6月10日開会）

今年度は建設委員会に所属し、副委員長を仰せつかりました。また、特別委員会は、コロナ対策特別委員会に所属しています。

一般質問3日目に登壇!【令和3年6月18日(金)】

今回は「農業振興について」「ごみ減量・資源化指針について」「岐阜市における食農教育について」の3項目について一般質問を行いました。

1 農業振興について

①市街化区域内農業に関しての方向性について

■岐阜市は県庁所在地でありながら、水田農業、施設園芸農業や牛、豚や鶏などの畜産業等多様な農業経営が展開されている。市街化農地に対する固定資産税などが農業経営の大きな負担になっている。市街化区域内で営まれる農業に関し、今後の方向性について質問。

■ 経済部長の答弁

「中心経営体による効率的な農業経営への支援」という施策方針を定め、農業振興地域での取り組みと同様、市街化区域においても「農業者への支援体制の整備」を図っていく。



② 農業分野におけるSDGsの考え方について

■ SDGsは、食料・農業・農村分野において環境に配慮した生産活動を積極的に推進するとともに持続可能な消費、持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。れんげ田の作付けは、「循環型農業」にあたる農業形態であり、SDGsそのものの考え方だと思うが、農業分野におけるSDGsの考え方と方向性について質問。

■ 経済部長の答弁

岐阜市では、堆肥センター「エコプラント椿」において、市内の養鶏事業者が排出する鶏糞や学校給食残渣などを原料に有機肥料「椿」を生産し、販売することで循環型農業を推進している。今後もSDGsに配慮した持続可能な農業の推進に取り組んでいく。

③ 「みつばちの家」の現状について

■ 岐阜県は近代養蜂発生の地であり、みつばちの家は全国の養蜂家の協力によって岐阜市に建設された。みつばちの家の現状と今後について質問。

■ 経済部長の答弁

みつばちの家は、毎年4千人から5千人程度の来場があり、近代養蜂の取組みを通じて、人と自然環境との関わり大切さを学んでいただいている。今後もミツバチの生態や養蜂の情報を発信していきたい。

2 ごみ減量・資源化指針について

■ 紙ごみの減量の取組みとその実績、啓発について

岐阜市においては、平成23年度に「ごみ減量・資源化指針」が策定され、その後、改定を経て現在に至っている。しかし、雑がみ回収袋を各世帯に配布する等、様々な啓発がされているが、なかなか周知されていないのが現状である。今までの取組みと実績について質問。

■ 環境部長の答弁

ごみの減量化に向けては、雑がみ回収スクール、雑がみ講座、各種イベントでの雑がみ回収や雑がみ回収体験袋の配布を実施している。市内50自治会連合会が中心となって資源分別回収を行っている。また、新たに「古紙回収用ボックス」を公民館などに設置するなど普及啓発に努めている。更なる普及啓発に努めていく。

3 岐阜市における食農教育について

■ 食農教育とは、「食」と「農」について体験し、学ぶことと定義されており、近年「食育」ではなく、食農教育を通じて学ぶ、食への感謝の新しいかたちといわれている。岐阜市の小学校等における食農教育の現状について質問。

■ 教育長の答弁

食農教育の取組みとして、生活科や総合的な学習の時間などでミニトマト、ピーマンや大根などの栽培を行っている。農業委員会等の協力で、令和2年度は、35校の小学校で栽培体験等を実施した。今後も地域の生産者の方や関連団体と連携協力を図りながら、食農教育の推進に努めていきたい。